

全国社会福祉教育セミナー
第50回大会記念特別企画

参加費 無料 定員：1000名
日英の同時通訳あり

2021.11.27 (sat)
17:00 ~ 19:00 (jst)

国際ソーシャルワーク教育シンポジウム (On-line)

『危機の時代におけるソーシャルワーク教育』

～ グローカルな視点から～

全世界に広がった新型コロナウイルスのパンデミックは、ソーシャルワーク教育と実践に多大な影響を及ぼしています。新型コロナウイルスは、これまで以上に、私たちの暮らしがグローバルな結びつきによって支えられていることを示すと同時に、グローバル化する課題に対して、グローバルな相互理解と連帯の必要性を提起しています。本シンポジウムは、こうした状況をふまえ、世界および各地域がコロナ禍で直面したソーシャルワーク教育・実践の困難や挑戦、そしてその克服の過程ですすむ革新を、グローバルおよびローカル（グローカル）な視点から考えます。

シンポジスト



タン・ノ・ティオン
(Tan Ngho Tiong)

シンガポール社会科学大学教授、IASSW 財務担当理事、元国際ソーシャルワーカー連盟副会長
「グローバル化、社会変容とソーシャルワーク教育の未来」



ミカエル・ウォレングレン-リンチ
(Michael Wallengren-Lynch)

スウェーデン・マルメ大学講師、IASSW 国際ソーシャルワーク教育調査委員
「コロナ禍におけるソーシャルワーク教育者の経験～IASSW 国際調査の結果から～」



白澤政和
(Masakazu Shirasawa)
国際医療福祉大学大学院教授
日本ソーシャルワーク教育学校連盟会長



テレサ・フランチェスカ
ベルトッティ
(Teresa Francesca Bertotti)

イタリア・トレント大学准教授、前欧州ソーシャルワーク学校連盟会長
「欧州におけるソーシャルワーク教育と今後の挑戦」



和気純子
(Junko Wake)

東京都立大学教授、IASSW 日本代表理事、日本ソーシャルワーク教育学校連盟副会長
「コロナ禍における日本のソーシャルワーク教育～ソ教連による調査を通して～」

コメンテーター



ヴィラグ・ヴィクトル
(Viktor Virag)

長崎国際大学講師
アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟理事

司会／モデレーター

GoogleForms より申込⇒ <https://forms.gle/634jVNxjo9qXifkD7>

※ 2021年11月24日(水)までに、ご登録いただいたメールアドレスに Zoom リンクが送られます。

<お問合わせ先> シンポジウム事務局 (和気研究室・ソ教連事務局)

E-mail : swe1127event@gmail.com *電子メールのみ



シンポジスト紹介

■ タン・ノ・ティオン (Tan Ngoh Tiong)

演題：「グローバリゼーション、社会変容とソーシャルワーク教育の未来」

シンガポール社会科学大学教授、IASSW 財務担当理事、元国際ソーシャルワーカー連盟副会長
ミネソタ大学にて博士号取得後、シンガポール国立大学、ミネソタ大学等で教鞭をとる。Global Institute of Social Work 理事長、Connexions International 会長を務めているほか、国際社会開発コンソーシアム理事、シンガポール・ソーシャルワーカー協会会長も歴任。アジアのソーシャルワークに関する著書、編著を多数執筆しているほか、ASEAN Journal of Social Work, Families in Society などの国際的学術誌の編集・査読委員も務める。



■ テレサ・フランチェスカ・ベルトッティ (Teresa Francesca Bertotti)

演題：「欧州におけるソーシャルワーク教育と今後の挑戦」

イタリア・トレント大学准教授、前欧州ソーシャルワーク学校連盟会長
児童虐待および家族ソーシャルワーク領域におけるソーシャルワーカーおよびサービス管理者として勤務した経験をもつ。現在の研究テーマは、児童福祉システム、専門職倫理、ソーシャルワーク教育、実践研究。これらに関連するテーマで幅広く執筆を行う。2015年から2021年にかけて、欧州ソーシャルワーク学校連盟会長および国際ソーシャルワーク学校連盟理事を歴任。



■ ミカエル・ウォレングレン＝リンチ (Michael Wallengren-Lynch)

演題：「コロナ禍におけるソーシャルワーク教育者の経験
～ IASSW 国際調査の結果から～」

スウェーデン・マルメ大学講師、IASSW 国際ソーシャルワーク教育調査委員
2004年にソーシャルワーカー資格を取得後、世界数カ国で実践活動に従事。2015年、イギリス・サセックス大学にて博士号を取得。その後、Gothenburg大学を経て、2019年より現職。研究テーマは、コロナ禍におけるソーシャルワーク学生の変容教育におけるジャーナル活用の国際比較視点、学校を基盤とする心理社会的介入の理解、スウェーデンとイスラエルのプライマリケアにおけるソーシャルワーカーの視点理解。



■ 和気 純子 (Junko Wake)

演題：「コロナ禍における日本のソーシャルワーク教育
～ソ教連による調査を通して～」

東京都立大学教授、IASSW 日本代表理事、日本ソーシャルワーク教育学校連盟副会長
アメリカ・ワシントン大学にてMSW取得後、東京都老人総合研究所を経て1998年より東京都立大学にて教鞭をとる。博士(社会福祉学)。専門はソーシャルワーク論、高齢者福祉、国際社会福祉。日本学術会議第一部会員、日本社会福祉学会副会長、日本ソーシャルワーク学会理事、日本老年社会科学会理事。

